

(平成29年 3月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水 産 物 全 般	3月の水産物の総入荷量は、前年同月と比べ、全般に漁獲が低調であったため、生鮮魚、冷凍魚、加工水産物ともに入荷量が下回り、全体で8%下回った。 総取扱金額は、前年同月と比べ、生鮮魚、冷凍魚は前年並みであったが、加工水産物は減少し、全体として3%下回った。
(区分別の動向) 生 鮮 魚	3月の生鮮魚の入荷量は、前年同月と比べ、7%下回ったことから、単価は6%上回った。 品目別には、よこわ、水かれい、たちうおは入荷が上回ったため、単価は値下がりした。あまだい、さわら、ますは入荷が下回ったため、単価は値上がりした。 4月は、たいが旬となる。その色鮮やかさから「桜だい」と呼ばれ、漁獲量が増え、単価はお手頃なものとなるが、味は一番おいしい時期である。お造りをはじめ、たけのこやごぼう等の旬の食材との煮つけ、焼き物等、旬の魚を堪能していただきたい。
冷 凍 魚	3月の冷凍魚の入荷量は、前年同月と比べ、10%下回ったことから、単価は10%上回った。 品目別には、冷えび・冷さけは、海外での需要が旺盛で高値が続いていることから、国内需要が低下し、入荷は下回った。冷さわらは、前年並の単価であるが生鮮魚の入荷が減少したことから、入荷は上回った。 4月の輸入冷凍魚は、引き続き海外の需要が旺盛であることから、単価は現状のまま高値が続くことが予想される。

加 工 水 産 物	3月の加工水産物の入荷量は、前年同月と比べ、10%下回ったことから、単価は4%上回った。 品目別には、塩銀さけ、塩さば、開干さんま、丸干ししゃもは入荷が減少したため、単価は値上がりした。塩紅さけはロシア産の単価が下がってきたことから荷動きが良くなり、入荷が増加した。 4月は、ちりめんの漁獲が増え、品質の良いものが多く取れる時期である。 また、ほたるいかも4月から5月にかけて旬となり、産地で知られる富山産は順調な水揚げから安定した入荷となっている。老化の防止につながるビタミンAやビタミンEも豊富に含まれているほたるいかを、産卵直前のこの時期に是非召し上がっていただきたい。
-----------	--

※生鮮魚：生鮮魚，貝類，淡水魚

※冷凍魚：冷凍魚（鯨肉を除く）

品 目	市 況 の 概 要
(生鮮魚主要品目)	
ま あ じ	和歌山，長崎で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ３９％上回ったため，単価は１２％下回った。
ま い わ し	三重，鳥取で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ１０％下回ったため，単価は１５％上回った。
さ ば	静岡，三重で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ２５％下回ったため，単価は１７％上回った。
す る め い か	長崎，富山で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ７２％下回ったため，単価は６３％上回った。
太 物	入荷量は前年同月と比べ，めばちまぐろは６８％上回ったが，本まぐろは８％，きはだまぐろは２７％下回ったことから，太物類の総入荷量は１３％下回り，単価は１３％上回った。
び ん ち ょ う	鹿児島，宮崎で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ７％下回ったが，前年に比べ小型サイズが多かったことから，単価は１５％下回った。
ひ ら め	長崎，韓国で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ７％下回ったため，単価は７％上回った。
(冷凍魚主要品目)	
冷 さ ば	国内外ともに原料となる大型サイズの漁獲が少なく，入荷量は前年同月と比べ２３％下回ったため，単価は５％上回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ５７％下回ったため，単価は６５％上回った。
(加工水産物主要品目)	
ち り め ん	入荷量は前年同月と比べ，２１％下回ったため，単価は１３％上回った。

なまぶし	入荷量は前年同月と比べ４％下回ったが，原料単価も安定していたことから，単価は前年並みであった。
------	---